

環境変動下での資源管理と地域のレジリエンスを学びたい方に

コモンズと地域のレジリエンス

気候変動への対応が求められる中、エネルギー、食料、水・土地資源の動向は地球環境問題とも密接に関係しています。資源利用に関わる地域的・国際的問題に重点を置いて、地域共有資源（コモンズ）の現状を把握した上で、その管理主体・組織が、地域のレジリエンスに果たす役割とその将来像を考えます。地域が自立的に発展する道筋をアフリカや他の地域の農村の事例とともに一緒に考えましょう。

梅津千恵子 教授

●出張講義分野

環境と資源管理、気候変動と農業生産、途上国経済

●研究分野のキーワード

農業の気候変動対応、地域のレジリエンス、管理組織

●専門分野

環境資源経済学、農業経済学、開発経済学



※もっと詳しく
知りたい方は



<https://researchmap.jp/umetsuchieko>

大学ではこんなことを研究しています

主に発展途上国における気候変動等の環境変動へ対応する農村社会、農村世帯の農業生産や資源管理とレジリエンスの関係を中心に研究しています。SDGsではGoal 1「貧困をなくそう」、Goal 2「飢餓をゼロに」に特に関連が深いです。灌漑組合等の地域資源を管理する組織経営体にも興味があります。

先生からメッセージ

気候変動という身近で起きている地球規模の環境問題に関して、実際の現場ではどの様な対応をせまられているのか、どの様な支援が必要なのかを考えます。物事を見る視点として狭い範囲で起こっていることが、全体の中ではどの様な位置づけになっているのか、俯瞰し比較する視点が重要です。地域（ローカル）と世界（グローバル）をつなぐ視点を持って、地球環境問題に対して自らが当事者となって行動するためには何が必要なのか一緒に考えましょう。

略歴 ハワイ大学農業資源経済学研究科博士課程修了。博士（農業資源経済学）。

青年海外協力隊、JICA、神戸大学、総合地球環境学研究所、長崎大学、京都大学を経て、2024年4月より現職。